



やさし 聞いてほしいねん!

メッセージ

子どもたちの希望に満ちた学校生活を送りたいという願いのもと、今年も1学期がスタートしました。

しかしながら、6月1日、長崎県佐世保市で小学校6年生女子児童殺害事件が起こりました。それは、同級生が学校の教室でナイフを使って友だちを殺害するというものであり、児童生徒や保護者に与えた恐怖や不安は大きく、学校教育にも大きなショックを与えるものでした。また、それは同時に学校の教育活動のあり方に、今一度問い直しを迫るものでした。

そこで、大阪府教育委員会では、緊急に「問題行動対策プロジェクトチーム」を設置し、学校教育や家庭教育のあり方についての議論を重ねるとともに、各市町村教育委員会からも意見や資料提供を受け、この事件から教訓化すべきことなどを「メッセージ」としてまとめました。

最も重要なことは、私たちがこのような事件を二度と起こさせないために、学校・家庭・地域社会が何をしなければいけないのかを問い直し、それぞれの立場で考え、できることから取り組みをはじめていくことです。

学校教育としては、互いの人権を尊重し、規範意識を確立することを基盤に、教職員が子どもたちの心の中により深く入り込み、子どもたちの思いや願いを把握する必要があると考えます。また、子どもどうしが憎み合い、傷つけ合い、命までも奪うという状況は、学校・家庭・地域社会が協力して、大人たちの力で、何としてもなくしていかなければなりません。

最後に、この「メッセージ」が、児童生徒が互いに学び合い、尊敬し合い、夢と希望をもてる学校教育や地域社会を創るための一助になることを願ってやみません。

学校教育へ

【子どもたちの声】

佐世保事件について、府内の小学生178人・中学生117人、計295人からアンケートをとり、その声をここに集約しました。

(1) あなたは、^{ながさきけん}長崎県^さ佐世保市^おで起きた^{じけん}事件^{はじ}を初めて知ったときどう思いましたか。(複数回答可)

小学生の感想

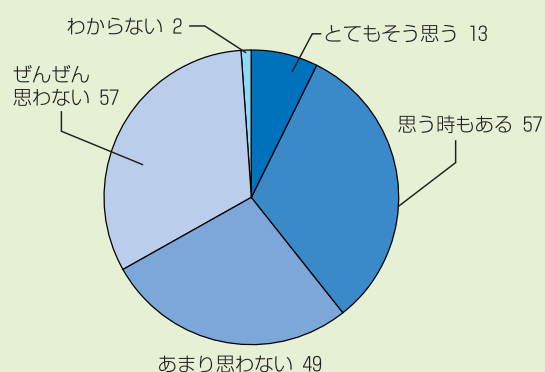
かわいそう、かなしい、いやな事件だ	(46人)
なぜこんなことをしたのか	(40人)
びっくりした	(28人)
怖い、ひどい、ざんこく	(25人)
許せない、まちがっている	(20人)
亡くなった子の親がかわいそうだ	(7人)
殺した人は友だちをうらんでいたと思う	(1人)
事件についてあまり知らない、無回答	(13人)

中学生の意見

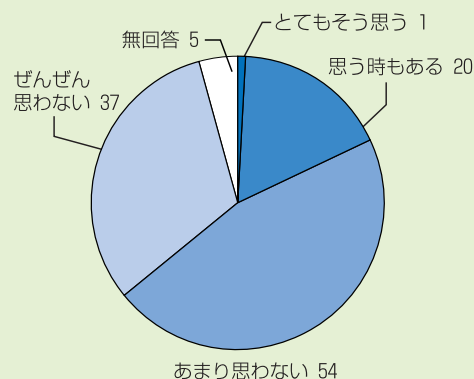
なぜこんなことが起こったのか	(27人)
あり得ない、信じられない、うそだと思った	(26人)
絶対にあってはならないことだ	(18人)
すごく驚いた、とてもびっくりした	(16人)
怖い	(15人)
人の命を何だと思っているのか	(6人)
なぜ本人に直接話し、解決しなかったのか	(5人)
我慢できなかったのか	(3人)
そんなに簡単に人を殺してしまえるのか	(2人)
もうこんなことがないようにしてほしい	(1人)
事件について知らなかった	(2人)

(2) 自分たちの身の回りでも同じような事件がおこるかも知れないと思いますか。 単位：人

小学生



中学生



(3) このような事件が二度と起こらないようにするためには、何が大事だと思いますか。

小学生の意見

友だちと仲良くする、いじめをしない、悪口をいわないなど	(52人)
気持ちをためずに、はっきりと友達に伝える、暴力であらわさない	(28人)
安全対策を強化する(パトロール、カッターなどの管理)	(12人)
自分自身が気をつける	(10人)
こんなことをさせないように周りがしていく	(10人)
人の命や心をもっと大事にする	(9人)
相談できる環境をつくり、先生がちゃんと聞いてあげる	(8人)
インターネット、ホームページなどでの悪口をなくす	(8人)
親が子どもを見ておく、相談できる家族	(3人)
思いつかない、わからない	(38人)

中学生の感想

よく話し合う、誰か(先生、親、カウンセラーなど)に相談する	(15人)
友だちと仲良くする	(11人)
命の大切さを考える、相手を思いやる、いじめをやめる	(10人)
自分をコントロールする、ストレスをためずに上手に発散する	(7人)
周りの人たち(先生、地域の人、自分たち)が気を配る、気づく	(6人)
映画、ビデオ、ゲーム、ドラマ、ナイフなどの環境を変える	(5人)
先生が一人一人のことをわかってあげる、みてあげる	(2人)
大人と子どもがもっと接し、意見を言い合う	(2人)
家族とのコミュニケーション	(1人)
みんなのことをもっと知る	(1人)
家の周囲の人々からアンケートをとり、対策をとる	(1人)
インターネットの利用は便利であるが、正しい使い方を知る	(1人)
スポーツで汗を流し、熱中する	(1人)
どうしようもない	(1人)
わからない	(3人)

<小学生の主張>

命の大切さ

私はこの事件を知って、殺された子どもの親は、今、どんな気持ちなんだろう。まだ、小学校6年生だったし、これからいろいろな未来が待っていたはずなのに、その未来をうばわれ、どのように思っているのだろうと考えた。

命には親がいて、その親の命にもまた親がいて 産んでくれた親がいるからこそ、自分の命があると思うと、自分の命を大切にしなければならない。でも、今まで仲良しだと思っていた友だちに殺されるなんて信じられなかったし、とてもとても悲しくなった。

もし、私だったら、自分の悪口を書かれたら、分かってもらえるか自信はないけど、分かってもらえるまで、自分の気持ちを一生けんめい相手に伝えようと思った。

この話を聞いて、あらためて自分の命がどれだけ大切なものなのか、自分の気持ちを相手に伝えることがどれだけ大事なことなのかを考えて分かった。これから、いつも命の大切さを考えて行動しようと思った。

子どもたちの声を受けて

子どもたちも、大きな驚きとショックを受けていることが分かります。このような事件を二度と起こさないようにするために、小学生は「友だちと仲良くする、いじめをしない、悪口を言わない」、中学生は「よく話し合う、誰かに相談する」という人とのかわりを大切に考えている声が増えています。

このような子どもたちの率直な思いや願いを教職員や保護者が、しっかり受け止め、私たちが取組んでいかなければならない方向性を明らかにしていきましょう。

子どもたちの笑顔が輝き、幸せな学校生活が送れるように、子どもたちの幸せを原点に学校教育を見直すとともに、家庭教育についても振り返っていきたいと思います。

学校教育への5つのメッセージ

1. 学級経営の見直し

一人ひとりの「存在」を認め合う学級経営をすすめ、個々の児童生徒が受容される居場所づくりに努めましょう。

- a) 個々の児童生徒がどこかで必ず活躍できる場をつくり、具体的な活動を通じた児童生徒間の人間関係づくりに努める。
- b) 個々の児童生徒の状況を把握し、児童生徒間で起きる問題や悩み等を受け入れ、保護者との連携を図りながら、解決に向けた具体的な支援に努める。
- c) 個々の児童生徒の人格を尊重するとともに、「他者を尊重し受け止めること」「命を大切にすること」等の教育実践を深め、児童生徒間の信頼関係を築く。

2. 相談機能の充実

児童生徒が発する「SOS」をキャッチできる信頼関係を築くとともに、児童生徒が気軽に相談できる環境を整備しましょう。

- a) 児童生徒と教師との間で、遊びや放課後の語らい等、児童生徒理解の機会を増やす。
- b) 学校の相談窓口を明確化し、それを周知するとともにスクールカウンセラーと連携して相談しやすい環境を整える。
- c) 相談内容の解決を図るため、必要に応じて早急に関係機関とも連携を図るなど適切な方策を提示する。

3. 生徒指導体制の充実

児童生徒間に生起する問題事案については、担任の「抱え込み指導」に陥らず、学年を中心とした集団指導体制を確立し、機動的な組織での対応によって解決に努めましょう。

- a) 校内に組織的に対応する検討会議を設けるとともに、問題解決のためのコーディネート機能を整備し、その機能の充実を図る。
- b) 管理職がリーダーシップを発揮し、組織的に問題を解決する方策を打ち出すとともに、児童生徒の心のケアに重点をおき、継続的な指導を行う。
- c) 児童生徒間の軋轢や摩擦から生じるストレス等を、暴言や暴力によらない方法で解決することについての指導に努める。
- d) 警察等関係諸機関と連携して犯罪防止教室等を実施するとともに、府教委の子どもサポートグループ等も積極的に活用し、問題行動の未然防止や緊急対応に努める。

4. 児童生徒の集団づくりの見直し

話し合い活動や体験的活動を通し、児童生徒が互いに切磋琢磨し、尊重し合う集団づくりをすすめましょう。

- a) 学級会やホームルーム等における話し合い活動を充実し、互いの意見を尊重し、思いを共有し合う人間関係づくりに努める。
- b) 学級・学年行事等において、児童生徒の自主性を尊重し、互いに協力し一つのことを成し遂げる達成感や成就感を体得させるようにする。
- c) 児童会や生徒会において、児童生徒が意見を出し合い企画・立案するような自主的活動の拡充を図り、自立と規律ある児童生徒の集団の形成をめざす。

5. 情報モラルの指導の徹底

ネット上の仮想現実の問題点や児童生徒が興味関心の高いサイト等を検証し、学校の情報教育において、人権上の課題や情報機器を活用する場合のモラルについての指導を強化しましょう。

- a) オンライン上のチャットやゲームにおける仮想現実の問題点を検証するとともに、ホームページ上の掲示板等における誹謗中傷等の人権侵害事象を題材に、教訓化するための教材を作成し、必要なツールとしてのパソコン活用のルールやマナーの指導を強化する。
- b) 有害情報の規制を図るため、フィルタリングソフト等の適正な活用をすすめるとともに、児童生徒に必要な情報を収集できる選択能力をつける。

教員の「子ども理解度」チェックリスト10

◆◆◆「はい」、「いいえ」で答えてください◆◆◆

1. あなたは、子どもと遊んだり、会話したりする時間をつくりだす努力をしていますか？
2. あなたは、子どもの悩みや思いを受け止めようとしていますか？
3. あなたは、上記の1. 2. 以外で子どもとの距離を縮めるための工夫をしていますか？
(具体的に：)
4. あなたは、1日の中でクラスの子どもたちに対し、一人ももれなく声かけができていますか？
5. あなたは、トラブルが起こったとき、子どもどうしで十分話し合いをもたせながら解決していますか？
6. あなたは、子どもどうしをつなぐ目的で、仲間づくりに取り組んでいますか？
7. あなたは、子どもたちの思いや願いを受け止めながら、「命の大切さ」をはじめ自分の思いを自分の言葉で子どもたちに語っていますか？
8. あなたは、子どものことを話題にしながら、自分だけで抱え込まず、学年の教員に相談したりして、教職員の共通理解に努めていますか？
9. あなたは、子どもの家庭状況や友人関係を把握しようとしていますか？
10. あなたは、子どもたちがインターネットでチャットやゲームの世界に、どの程度浸っているかという実態を理解していますか？

あなたの教育活動を今一度、振り返る参考にしていただけたらと思います。

自己採点(はい 1点 いいえ 0点)して、仲間と話し合ってみてください。

～ 子どもにとって最良の教育環境をつくっていきましょう！ ～

家庭教育へ

家庭へのメッセージ

子どもの育て方は、家庭によって千差万別です。私たち大人は、どちらかという、子どもに勉強させることには一生懸命になりますが、きちんとしたしつけをすることや、できるだけ子どもと会話することにはあまり心を砕いていないように思います。中には、子どもは勝手に育つものだと考えている人もいるのではないのでしょうか。意識して、子どもたちにさまざまな働きかけを心がけていくことは、実はとても大切なことです。

子どもが育つ環境が整っていなかったり、人からの働きかけが十分でなかったりすると、子どもはしっかりと社会生活を営む人には育ちません。まず、自分の子どもと真正面から向き合い、豊かな人間関係を築くことができるように育てていこうという心構えをもつことがスタートだと思います。

1. 子どもたちに気軽にかかわっていきましょう！

<子どもと会話する>

- ・「おはよう」「おやすみ」「ありがとう」といったあいさつをかわす
- ・子どもの問いかけに、きちんと応答する
- ・子どもの話をじっくり聴く
- ・子どもの反応をじっくり待つ



<子どもを伸ばす>

- ・子どもの成長をいろいろな「ものさし」で見えていく
- ・さまざまなことを子ども自身が体験できるようにする
- ・子どもが自信をもち、意欲的に取り組んでいるものを見守り伸ばす
- ・子どものどんな些細な頑張りや努力もしっかり認め、心からほめる

<子どもを知る>

- ・子どもの興味や関心に注意を払い、子どもの思いや願いを受け止める
- ・子どものSOSや問題行動の前兆をすばやくキャッチし、対応する
- ・子どもと一緒に体験できる機会をもつ

2. 子どもがたくましく育っていける環境を整えていきましょう！

- ・幼児期からテレビだけではなく、さまざまな活動的な遊びができるようにする
- ・テレビゲーム、パソコン等によるバーチャルな世界だけではなく、子どもができるだけ豊かな体験ができるようにする
- ・暴力やホラーといった有害情報（小説・映画・マンガ等）に子どもが浸らないよう配慮する
- ・朝食をしっかり摂らせ、子どもが元気に登校できるようにする
- ・規則正しい生活リズムを心がけ、早寝早起きにも気をつけ十分な睡眠がとれるようにする



わが家の子育て

～あんな工夫！ こんな工夫！～



子どもと会話すること、食事をする、テレビを見ること、そんな日常のあたりまえの時間に、「子どもたちのため」に少し心を砕いてみてください。子どもと積極的に触れあうことで、いつもと違った子どもの姿が見えてくるかもしれません。子育てがこんなにも楽しく、また貴重なものかと感じることができるはずです。

ここに掲載した事例は、わが子の成長を子どもの視線でとらえ、それぞれの家庭状況に応じて工夫を凝らした「わが家の子育て」の風景です。

みなさんのご家庭でも、きっとこのような風景があるのではないのでしょうか。



【1】子どものことを母親任せ、父親任せにいませんか。

《子どもとの距離》 仕事に忙しい父

昨年の夏、妻の入院で1ヵ月ほど私と子ども3人の生活が続きました。家事も大変でしたが、子どもの宿題を見るのも大変でした。子どものノートも初めてじっくり見ました。汚い字は横について書き直しをさせたり、間違いも一緒になって直したりしました。忙しかったけれど、関わればかかわるほど、子どもを身近に感じかわいく思えました。私と子どもの距離がいつべんに近づいた1ヶ月でした。

【2】子どもと遊んだり、会話したりする時間を工夫していますか。

《家族の団らん》 ゲームを楽しむ家族

お母さんと中学生のお兄ちゃんと小学生の妹2人が、夕食後、みんなで洗い物をした後で、「ダイヤモンドゲーム」をすることがわが家の娯楽です。ゲーム板を中心に、家族4人が放射状に這いつくばり、「ちょっと待って」とか、「まいったかあ」と言いながら、楽しいひとときを過ごしています。

《家族が一つになれる時》 山を愛する父

うちの家では、毎年夏休みに夏山登山を計画します。家族そろって重い荷物を背負って険しい山並みを歩きます。高山植物を楽しみ、稜線を吹く心地よい風を共有しながら、家族の助け合いや、最後まで歩き通す忍耐力、自然愛護を教えてきました。何より楽しいのは、飯ごう炊飯による昼の食事と、夜の家族のトランプです。家族が一つになれる別世界の楽しいひとときです。

【3】「子どものため」の工夫をしていますか。

《毎日10分の大切な時間》 共働きの二児の母

結婚以来ずっと、共働きの家庭です。私自身も帰宅が遅いのですが、子どもが小さい頃から毎日寝る前の10分の読み聞かせだけは続けています。上の子は今、高学年になりましたが、ちょっとした小説を読んでもらうのを、今も毎日楽しみにしてくれています。私にとっても、とってもほっとする大事な時間です。

【4】家庭で子どもに何か役割を持たせていますか。

《家族の役割》 頼み上手な父

お父さんだけでは大変なので、家族みんなで話し合い、家の仕事分担を決めています。干してある洗濯物を取り込む、新聞や牛乳をとってくる、ゴミを出す、買い物に行くなど、できるだけ子どもにも一緒にやってもらうようにしています。家族の一員であるという自覚もできて、「ありがとう」「たいへんだっとう」「たすかったわ」「ごめんね」という会話から信頼、愛情、充実感、一体感が家庭に築かれていくように感じます。



【5】子どもとの食事や記念日を大切にしていますか。

《やすらぎと家族の絆》 買出しを楽しみにする父

わが家では、毎週土曜日に、1週間の献立を家族みんなで決めることにしています。それぞれが食べたいものや誰がつくるのかも話し合うのが楽しいひとときになっています。日曜日は、スーパーのチラシをもとに、買い物リストをつくり、みんなで買出しをし、みんなで夕食をつくり楽しく食べています。

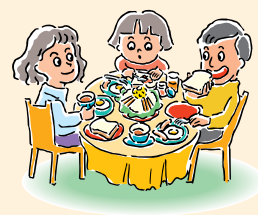
《わが家の記念日》 記念日好きの母

現在1年間に12の記念日が、わが家にはあります。記念日には、どんなに忙しくてもおばあちゃんも一緒に家族全員での夕食等、時間と喜びを共有しています。誕生日を含め、「おめでとう」や「ありがとう」というごく当り前の会話がある家庭を大切にしたいと思っています。これからも家族の記念日を年々増やして行くつもりです。

【6】子どもの規則正しい生活、十分な睡眠に心がけていますか。

《「ふくろの味」から「家庭の味へ」》 共働きの母

家の近くにコンビニができ、おいしいおにぎりや冷やしうどん等が手軽に買えて、とても便利になりました。すぐに、中学生の娘にお金だけ渡してお弁当を作らない日が増えました。また、娘や妹を連れて私の友達とカラオケボックスに行き、子ども達の睡眠時間が不規則になることも多くなりました。これではいけないと思い、現在はその時期の反省をいかして、手作りの弁当「家庭の味」にこだわっています。夜の外出も子どもの規則正しい生活のために私自身が我慢しています。



【7】子どもとの会話を大切にし、子どもの変化に気がついていきますか。

《子どもとの会話》 本音で語る母

まず、自分のことを語ることから始めています。学習のこと、友達のこと、恋愛のことなど、親の経験談を話していく方がよく聞いてくれるようです。失敗談もいいですね。(特に人を傷つけて苦しかった経験。許してもらえたときの安堵感。失恋した話など。)結構新鮮な感覚で聞いてくれます。そのうち、子どもの方も自分のことを話してくれるようになりました。

《お父さんの工夫》 帰宅時間の遅い父

お父さんは、平日子どもと過ごす時間が少ないので、必ず土日の中で時間を決めて小学生の娘や息子の宿題や勉強を見る時間をつくりました。1週間に1回ですが、子どもたちは真剣に取り組み、お父さんにほめられたときは、とてもうれしそうな顔をします。お父さんにも子どもたちの学校での様子が少しは伝わっているようです。今年は日曜参観にも行きました。

【8】子どもとともに過ごす場を意識していますか。

《子どもとともに》 休日を心待ちにする母

土日は、小学生の息子のサッカー、中学生の娘のバレーボールの試合や練習試合をできる限り父、母や時にはおじいちゃんも一緒に応援に行くようにしています。学校週5日制になったおかげで、子どもの校外での活動が増え、同時に見る機会も増えました。子どもたちといっしょに活動することで子どもとの会話も親どうしのつながりも増えました。

【9】家庭での環境づくり、情報モラルについてなにか工夫をしていますか。

《情報モラル》 子どもが心配でたまらない父

わが家では、パソコンをリビングに置いています。わたしが仕事やメールをする時、お母さんが調べ物やショッピングをする時、当然子ども達が調べ物やゲームをする時も回りには誰かいます。大人も子どももパソコンを使う時、一番の抑止力は人の目です。子ども達がどのようなことをしているのかを把握するのが親の役割だと思っています。子ども達が危険なサイトにアクセスする確率は学校より家庭の方がはるかに高いのですから。



おわりに

6月に長崎県佐世保市で起こった小学校6年生女子児童殺害事件においては、コンピュータを利用したインターネット上のチャット・掲示板などを通じたコミュニケーションの在り方が大きくクローズアップされました。

インターネットには有益情報がある一方で、暴力や性等に関する有害情報があふれているのも事実であり、情報は時として人権を傷つける凶器にもなり得ることはインターネット時代の影の部分と指摘されています。情報教育を通して、あふれる情報の中から有益・無益、真実と虚構、善意・悪意などを主体的に判断できる能力の育成、またプライバシーの保護や著作権の保護、情報発信者としての責任など、情報モラルの育成が求められています。



しかしながら、子どもたちが、「思わず有害情報を見てしまう」「あやまって個人情報を送信してしまう」など問題事象が起こる可能性があります。また、ネットワーク上では、さまざまな人権侵害事象が起こっており、本人が気づかないうちに加害者や被害者になってしまうこともあります。

このような事態を未然に防止するためには、使用する側の情報モラルが問われるのは当然であり、そのための学校教育の担う役割は大きいですが、一方で社会や企業としての自主的な規制など果たすべき役割があるものと考えます。

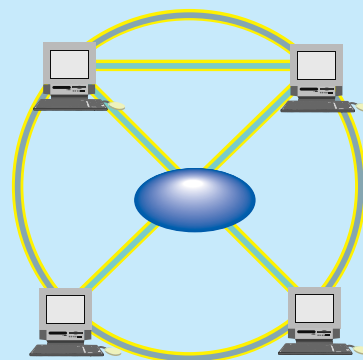
ハイテク犯罪対策講演のご案内について

大阪府警察ハイテク犯罪対策室

大阪府警察ハイテク犯罪対策室では、出会い系サイトを悪用した犯罪、掲示板での書き込みによるトラブル、アダルトサイトからの架空請求等、増加を続けるハイテク犯罪に対応するために広く府民に対してハイテク犯罪の現状や対策、また、情報セキュリティに関する広報・啓発活動を推進しております。

その一環として、教師・保護者・生徒等を対象にインターネットマナー（ネチケット）を含めたハイテク犯罪の現状や対策について学校に赴いて講演しております。

インターネット教育の一環としてハイテク犯罪対策講演を希望される学校があれば、直接、大阪府警察ハイテク犯罪対策室の担当者までお問い合わせください。

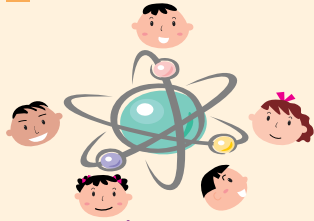


連絡先 大阪府警察本部ハイテク犯罪対策室
TEL 06-6943-1234 内線 34920 34921

小・中学校のみなさんへインターネットを利用するときの約束!!

皆さんは、これまで学校、図書館、家などで、インターネットを利用したことがあると思いますが、学校や社会と同じように、インターネットにも守るべき約束があります。

1つ目は「相手のことを思いやる」こと、2つ目は「自分の身（み）は自分で守る」ことです。インターネットを利用するときには、この約束以外にも気をつけなければならないことがあります。**わからないことがあったら、先生や家の人に、相談（そうだん）するようにしましょう!**



インターネットは、世界の人たちと話ができる、楽しいところですが、なかには悪い人もいるし、こわい事件も起こります。

だからインターネットは、かならず、先生か家の人がいるときに使うようにしましょう。



けいじ板・チャット・メールで楽しむとき

インターネットでは、声の調子や表情がわからないので、話したい内容が正しく伝わらないことがあります。軽いじょうだんのつもりが友だちをおこらせたり、ぎゃくに友だちの一言でいやな気分になるかもしれません。話したいことが正しく伝わるようにしましょう。



住所や家のことをたずねられたとき

インターネットには、住所や電話番号、パスワードや家のことをきき出して、悪いことをする人がいるかもしれません。メールなどで知り合った相手に、自分や友だちの大切な情報（じょうほう）を気軽（きがる）に教えないようにしましょう。



ホームページで調べものをしたとき

ホームページに書いてあることがかならず正しいとはかぎりません。まちがっているかもしれないし、まちがっていても、古いものやうわさ話かもしれません。ちがうページとくらべてみたり、図書館などでくわしく調べてみたりしましょう。



アニメキャラクターを使いたいとき

アニメのキャラクターやコンピューターのソフトウェアなどは、すべて著作権（ちよさくけん）の関係で、勝手につかうことはできません。著作権の考え方は大変むずかしいので、自分で判断（はんだん）せず先生か家の人に相談（そうだん）しましょう。

インターネットを利用しているときに、何かトラブルに巻き込まれそうになったり、わからない事が起きたときには、

ひとりで悩（なや）まずにかならず、先生や家の人に相談（そうだん）するようにしましょう



いやなメールを受け取ったとき

知らない人からいやな気分になるようなメールやチェーンメールといった「不幸の手紙」のようなメールを受け取ったり「会員になりませんか」といった内容のメールを受け取ったときは、**先生や家の人に相談しよう!**



勝手に自分の絵や写真を使われたとき

自分の書いた文章や絵や写真が、自分の知らないうちに他の人のページに使われているのを見ついたり、自分や友達の悪口（あくぐち）がかかっているページを見つけたときは、**先生や家の人に相談しよう!**



悪いページを見つけたとき

ホームページの中には、私たちがみるにはふさわしくない内容のページもたくさんあります。そういうページを見つけても、決して相手にしないようにしましょう。少しでもわからない点があったら、**先生や家の人に相談しよう!**



ページを作成して公開するとき

もし、自分でホームページを作って公開するのなら、その内容には、せきにんを持ちましょう。ページを公開するということは、世界中の人がみる可能性があるのです。公開するまえには、**先生や家の人に相談しよう!**

※この内容は、大阪府生活文化部子ども青少年課（<http://www.pref.osaka.jp/koseishonen/index.html>）、大阪府教育委員会事務局教育振興室教務課（<http://www.pref.osaka.jp/kyoishinko/kyomu/index.htm>）のホームページに掲載しています。
※この内容は、財団法人インターネット協会の「インターネットを利用する子供のためのルールとマナー集」を参考にしています。
※くわしく知りたい人は、（<http://www.iajapan.org/rule4child/>）をごらんください。